

中高接続の視点を踏まえた組織的な授業改善等に係る取組

北海道広尾高等学校 学級数 3 (校長 柴山 真純)

□ 実践の概要

本校は、「義務教育段階の学びを踏まえた授業改善プロジェクト」の実践校として、連携型中高一貫教育の取組を生かしながら、「全国学力・学習状況調査」及び「CBA テスト・北海道高等学校学習状況調査」の結果を踏まえ、学校設定科目「広尾地域学」を軸とした、探究的な学びに取り組んだ。

1 実践の目的

中学校段階から高校入学後における実態を踏まえた組織的な授業改善を行い、検証改善のサイクルを確立し、本校が育成を目指す資質・能力を生徒が確実に身に付けることができるようにする。

2 実践内容

(1) 実施計画

ア 連携型中高一貫教育に係る取組

- ・中高一貫基礎学力テストの実施及び分析（広尾中学校 3年生対象）（3月～）
- ・中高一貫合同部会（育成したい生徒像の共通理解及び授業改善に向けた協議）（4月）
- ・教科指導に係る中高連携（相互授業公開や乗り入れ授業、中高合同教科部会等）（6月～）

イ 授業改善のためのPDCAサイクルの確立

- ・エビデンスを踏まえた授業改善の視点の共有（通年）
- ・各教科等における探究的な学習の推進（通年）

(2) 取組の具体

ア 校内研修による授業改善の視点の共有

「全国学力・学習状況調査」及び「北海道高等学校学習状況調査」の結果から、本校の強みや弱みを分析した上で、本校のスクール・ミッションを踏まえた授業改善の視点として、次の項目を継続的にアセスメントすることとした。

- 「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。」
- 「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。」
- 「先生から示される課題や、クラスやグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいた。」

イ 授業アンケートの工夫・改善

アセスメントすべき項目について、生徒の意識の変容を見取ることができるよう授業アンケートを改善した。

ウ 学校設定科目「広尾地域学」の開設

広尾町のまちづくりの在り方を提案することをねらいとした、農林水産業の実態に関する探究学習を行った。

(3) 取組後の点検・評価、工夫改善

「広尾地域学」の授業アンケートにおいて、「広尾地域を学習する場面を増やし、高校生が地域に対して改善点を伝えることができるようになると広尾がもっとよくなると思う。」などの記述があり、地域課題の理解や課題解決への意識が高まっている様子が伺える。一方、探究的な学びに係る項目の結果から、自ら主体的に課題を解決する力の育成に向け一層の工夫が必要であると分かった。

(4) 改善後の取組

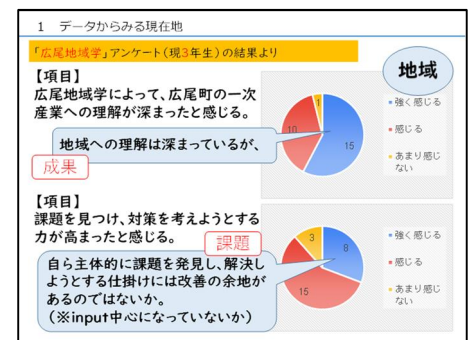
本校として身に付けさせたい力を踏まえた単元配列表を改善し、探究的な学びの推進のための各教科等の関連を分かりやすく見える化する。また、連携型中高一貫教育による取組の一層の充実のため、地域に関する学習や、各教科等における探究的な学習において中高の接続の視点を持ち、さらに連携を深めていく。

3 実践のポイント

- ・各種調査等の結果から、本校のスクール・ミッションを再認識した上で、授業改善の視点をもつことできたこと。
- ・中高連携のもと、本校の生徒が、「広尾地域学」を軸とした各教科における探究的な学びを踏まえ、広尾町のまちづくりに主体的に参画しながら、育成を目指す資質・能力が身に付くようにしたこと。



【林業に関する学習】



【アンケート結果の分析】